

水稲用初・中期一発処理除草剤

ゼータプラス®

フロアブル

雑草へ、
猛突進。

オモダカ
クログワイ コウキヤガラ



本剤は(公財)日本植物調節剤研究協会での
A1S区分:難防除雑草一発処理(オモダカ・ク
ログワイ・コウキヤガラ)で判定を取得しています。



エフィーダ® 配合
問題雑草に広く効く!!

2
成分

ノビエ
4
葉期



ノビエ



ホタルイ



クログワイ



オモダカ



コナギ



イボクサ



ミズアオイ

水稲用初・中期一発処理除草剤

有効成分
フェンキノトリオン…5.8%
プロピリスルフロ…1.7%
除草剤分類 27.2

ゼータプラスフロアブル

- ◆ 2成分の一発処理除草剤（フェンキノトリオン、プロピリスルフロ）
- ◆ 高葉齢のノビエ（4葉期）を始めSU抵抗性雑草に優れた効果
- ◆ 多年生難防除雑草オモダカ、クログワイ、コウキヤガラに高い効果



適用と使用方法

2024年3月現在の登録内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草、 エゾノサヤヌカグサ	移植後3日～ ノビエ4葉期 ただし、 移植後30日まで	500mℓ/10a	1回	原液湛水散布、 水口施用 又は 無人航空機 による滴下
直播水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類 による表層はく離	稲1葉期～ ノビエ4葉期 ただし、 収穫90日前まで			

フェンキノトリオンを含む農薬の総使用回数
2回以内

プロピリスルフロを含む農薬の総使用回数
2回以内

主要雑草に対する使用適期

ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ	3葉期まで
ミズガヤツリ	草丈20cm以下まで
ヒルムシロ	発生盛期まで
セリ	再生期まで
エゾノサヤヌカグサ	発生始期まで
オモダカ	発生前からヘラ葉期まで
クログワイ	発生前から 草丈10cm以下まで
コウキヤガラ	発生前から 草丈35cm以下まで
シズイ	草丈3cm以下まで



本剤は（公財）日本植物調節剤研究協会でのA-1S区分：難防除雑草一発処理（オモダカ・クログワイ・コウキヤガラ）で判定を取得しています。

上手な使い方〔散布量／500mℓ（1本）〕

均平化作業・植付けはていねいに！

田面が凹凸していると薬剤が均一に広がらず、効果不良・薬害の原因になることがあります。

移植深度は適正に！

極端な浅植では根が露出し薬害原因となります。根が土壌中に隠れるよう、適正な移植深度に田植機を設定してください。

散布時の注意！

散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）で散布してください。また、極端な浅水や深水での使用はさけてください。

散布後の注意！

散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は、落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。

使用上の注意事項

- 使用前には容器を軽く振ってください。
- 雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの4葉期までに時期を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するようにしてください。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）で、まきむらが生じないように均一に散布してください。また、極端な浅水や深水での使用はさけてください。
- 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水と共に水田全面に拡散させてください。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達したときに必ず水を止め田面水があふれ出ないように注意してください。
- 無人航空機で滴下する場合は次の注意を守ってください。
 - ① 滴下は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - ② 滴下に当っては散布装置のノズルを使用しないでください。
 - ③ 作業中、薬液が漏れないように装置の十分な点検を行ってください。
 - ④ 隣接する圃場に水稲以外の作物が栽培されている場合は無人航空機による本剤の滴下は行わないでください。
 - ⑤ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分留意してください。
 - ⑥ 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬剤タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
 - ⑦ 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないでください。
- 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
- 苗の植え付けが均一になるよう、代かき、均平化および植付作業はていねいに行ってください。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行ってください。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
 - ① 砂質土壌の水田および漏水の大きな水田（湛水深が2cm／日以上）。
 - ② 軟弱な苗を移植した水田。
 - ③ 極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田。
- 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 暑い多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用はさけてください。
- 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用してください。
- 散布田の田面水を他の作物に灌水しないでください。
- その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用の場合は十分注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。
- 使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 散布の際は不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温場所に密栓して保管してください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 小児の手の届く所には置かないでください。● 空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

06R3C24Z40:ZS

2024年3月作成

農薬・肥料に関する
総合情報サイト【i-農薬】や
各種SNSはこちら



〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号
お客様相談室 0570-058-669
(または ☎ 03-6630-3322)